

目標および成果指標の設定 記入様式

活動団体名： 一般社団法人をかしや

上位関連計画にみる地域の将来
 ○地球温暖化対策推進法や政府の目標：2013年度比で2030年までに46%削減、2050年までにカーボンニュートラル達成
 ○第5次エネルギー基本計画における、2030年に実現を目指す再エネの電源構成比率：22～24%、
 2030年に実現を目指す実質エネルギー効率（最終エネルギー消費量/実質GDP）35%減。
 ○現在の人口：680,125人、将来：650,000人（2030年）、545,460人（2045年）（地域経済循環分析2015年推計）

②具体的な取組
 ※誰が何をするのか、主なものをお書きください。
 ●R317エリア、特に奥道後温泉、道後温泉が連携したワーケーションプログラムの開発、実施
 ●松山ー今治エリアの観光事業者、農業従事者、その他事業者を中心としたマイクロツーリズムの取り組み
 ●地域ガイド、ファシリテーター養成研修の実施
 ●環境を保全しつつ、地域資源を生かした持続可能な観光の仕組みづくり、エコツーリズム、アドベンチャーツーリズムの推進
 ●発電事業者、森林組合の連携により木質バイオマス発電事業を開始し、エネルギー自給率を高める。

①ありたい未来
 ・地域の人々が、今治市と松山市という行政区分にとらわれることなく、国道317号線をシンボルとして一体の地域として捉え、そこにあるさまざまな魅力、地域資源に気づき、誇りを持つ。地域や観光の保全意識も高まっている。
 ・単一でも十分に魅力のあるしまなみ海道や松山城、道後温泉などの観光資源が連携し、お互いを行き来できるような関係性ができている。
 ・R317地域の魅力が十分に発信され、観光客のみならずワーケーション、インバウンドなど多様な人が地域を訪れる。それにより外貨を獲得できるようになっている。
 ・松山市、今治市および近隣市町村の人々がそれぞれの地域を訪れて楽しむマイクロツーリズムの仕組みができている。それにより経済循環が生まれている。
 ・木質バイオマス発電、太陽光パネル無料設置モデル「LEDS's」を中心とし、再生可能エネルギーが当たり前になっている。これにより大きな地域内経済循環が生まれている。

③短期目標

分野	小項目	成果指標	現状値	目標値 (2022年度末)	実績値 (●●年度末)	単位
環境	再生可能エネルギー	内子バイオマス発電書視察	0	1		回
	太陽光発電	無料設置(LED's)モデル	0	2		件
経済	ワーケーション	ワーケーションツアー参加者数	0	10		人
	マイクロツーリズム	勉強会実施	0	2		回
	ガイド、ファシリテーター養成	研修参加人数(2023年度)	0	25		人
社会	R317に対する注目度が高まる	メディア掲載	0	1		回
	事業プラットフォーム作成	協議会の設置(2023年度)	0	20		団体

④長期目標

分野	小項目	成果指標	現状値	目標値 (2020年度末)	目標年度 2030-2050年度	目標値	単位
環境	再生可能エネルギー	バイオマス発電開業		0	2035年度	1	箇所
	太陽光発電	無料設置(LED's)モデル		2	2030年度	100	件
経済	ワーケーション	ツアー参加人数	0	10	2,025	100	人
	マイクロツーリズム	参加者数	0		2,025	300	人
	ガイド、ファシリテーター養成	研修参加者数		25		100	人
社会	R317に対する注目度	メディア掲載	0	1	2,025	10	回
	事業プラットフォーム	協議会参加団体数	0	20	2,025	100	団体

⑤短期指標が長期目標にどのように関わるのかお書きください

※環境・経済・社会がどのように関係し合い、相互に高まっていくのか具体的にお書きください